



ひなどり

園だより 4月号
平成30年4月5日
新潟市立新津第三幼稚園

ミラーリング効果と、スキンシップ

園長 間嶋 哲

「ミラーリング効果」という言葉があります。私自身は、かつてNHKのテレビ番組で、この言葉を知りました。簡単に説明すると、同じことをしていても、ニコニコしながら接すると、相手は気持ちよく受けとめる（つまりニコニコ顔になる）が、逆に仏頂面をして接すると、相手も不快な気持ちになり表情が冴えないということらしいのです。実際に街頭で実験をしてみると、見事にそうなるから、こわいものです。

さて、みなさんは、子どもたちにどのような表情で接しているでしょうか。

子どもだって、いつも「おきこうさん」ばかりではありません。そんなとき、ただ感情的に叱りつけて終わるのではなく、落ち着いて（場合によっては悲しげに）諭し、最後にはニコリと「でも、次には頑張るね」と、期待の言葉を投げ掛けることで、効果がぐんと上がることがあります。これまでの教職生活で、このような経験をたくさんしてきました。

ところで、スキンシップの大切さは、誰もが認めることであろうと思います。それでは、なぜスキンシップは大切なのでしょうか。

アメリカの心理学者であるハーロウの、アカゲザルの赤ちゃんを使った有名な実験があります。胸に哺乳瓶がついている針金製の代理母と、哺乳瓶はついていないものの毛足の長い柔らかい布で針金を包んだ代理母に対して、どの程度の愛着を示したかの実験です。それによると、お腹が空けば当然、前者にしがみつくものの、成長するにつれて後者にしがみつくようになったのです。さらに前者で育てられたアカゲザルは、いつも怯えている様子が見られたのに対し、後者で育てられたアカゲザルは、好奇心旺盛で冒険心も強いらしいのです。

さて、みなさんのお子さんは、手が温かい方ですか。それとも冷たい方ですか。

こんなふうに問われたとき、すぐに答えられるようにしたいものですね。

平成30年度がスタートしました。78名の子どもたち（来週入園する年少組を含む）と、私を含めた10名の教職員が、一年間ともに歩んでいきます。私たち自身がまず、常にミラーリング効果を考え笑顔で接するとともに、どの子どもともスキンシップをはかり、子ども一人一人と心を通わせる保育をしていきます。どうぞ、よろしくお願いします。

